

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～
・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体
発行責任者 尾崎 朋子
文 責 佐々木正道
発行日 平成31年3月25日

生徒たちの「桜守」の皆様への感謝を込めて

校長 尾崎 朋子

去る3月15日（金）、多くの保護者の皆様、御来賓の皆様のご隣席のもと、本校の第41回の卒業証書授与式を挙行いたしました。

107名の卒業生達は3年間で大きく成長し、特に3年生としての1年は多くの場面でリーダーとして期待に応える活躍をみせてくれました。

そして、互いにしのぎを削りながらも、仲間を大切に、学校行事では学級がひとつになり、目標に向かってひたむきに取り組み、最高学年としてあるべき姿を示してくれました。3年生が創りあげた本校の新たな伝統は、在校生に確実に受け継がれていくと信じています。

さて、卒業証書授与式では、次のような話をさせていただきました。

一年を通して桜の木の成長を見守り、大切に保護し育てる仕事をする「桜守（さくらもり）」と呼ばれる人たちがいます。ある桜守の方の話をご紹介します。

「人を包みこむように桜の花は下を向いて咲きます。人と同じように一つ一つの花に個性があります。『手入れ』ではなく、桜は『守』をしないといけない木なのです。桜の声を聞き、光や水、鳥、周りの木に気をつけなければなりません。手塩にかけて育てること、何より愛情が大事なのです。でも、かまひすぎてもだめなのです。弱くなってしまふからです。」

桜の花が咲き終わると桜守は、新種を見つけるために全国を回ります。夏は桜の幹を太らせる大事な時ですが、虫がついたり病気になりやすいので気をつかうそうです。桜の種まきもします。秋は葉が美しく色づき始めます。冬は、夏から秋にたくわえた樹木の力を休ませる時期です。冬の寒さがやわらいでくると、つぼみがふくらみます。その様子を「笑いかけ」というそうです。桜が優しくほほえむ季節です。桜守たちは、この瞬間が一番好きなのだといいます。大切に育ててきた子どもを見守るような気持ちなのだと思ひます。

生徒たちにも桜守と同じように、ある時は優しく、ある時は厳しく愛情を注いでくれた家族や先生、地域の方々があります。自分を支えてくれた周囲の人達への感謝の気持ちを忘れず、桜の花のように人を包み込むような優しさをもった人であってほしいと願っています。



本日をもって平成30年度の本校の教育活動がすべて終了いたしました。

保護者や地域の皆様には、日頃より温かいご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。おかげをもちまして、教育活動が円滑に進み、生徒の成長が実感できる1年となりました。心よりお礼を申し上げますとともに、今後もお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。